

第21回地方公務員共済資金運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成30年6月19日（火） 15:00～16:30
2. 場 所：地方公務員共済組合連合会 特別会議室
3. 出席した委員：
 - ・若杉座長 ・川北委員 ・佐藤委員 ・芹田委員 ・高山委員
 - ・竹原委員 ・長澤委員 ・蜂須賀委員 ・森本委員
4. 議 事
 - (1) 管理運用の方針等の変更について
 - (2) 平成29年度各積立金の管理及び運用に関する業務概況書
 - (3) 平成29年度各積立金のリスク管理の状況
 - (4) 退職等年金給付積立金の基本ポートフォリオの検証について
 - (5) 経過的長期給付積立金におけるオルタナティブ投資について

〈議事の概要〉

- ・事務局から上記議題について資料の説明が行われた。
- ・その後、意見交換が行われた。

(2) 平成29年度各積立金の管理及び運用に関する業務概況書

- 資産構成割合が全体として中心値に近づいているが、どのような売買行動なりで生じたのか。意図したものか、それとも満期償還等で自然的に真ん中に寄ってきたのか。できれば今後、そのあたり多少説明を加えたほうが、見る人にとって親切かと思う。
- 足元のトラッキングエラーの推移をみると、平成29年度のアンダーパフォーマンスは概ね1標準偏差となっており、あり得る話と思う。その幅という意味と方向性という意味で、アクティブ運用について、どのように評価しているか。

(3) 平成29年度各積立金のリスク管理の状況

- 外国株式のアクティブのトラッキングエラーが、徐々に落ちてきている。アクティブ運用と言いつつも、パッシブに近いような運用をし

てという状況があるのではないかという一般的な議論もあるが、地共済に関してはそのような傾向は見られるか、分析をしたことはあるか。

- 各マネジャーが同じだけリスクをとっていても、マーケットのリスク自体は減少傾向にあるので、そこは1つの理由としてあるかと思う。
- (5) 経過的長期給付積立金におけるオルタナティブ投資について
- 旧3階のところは極端に高いリターンは狙わないということであれば、流動性、下振れリスクを考えて極端なところはとらないということから、スタートするのであればいいのではないかと思う。
 - 基本ポートフォリオの検証等において、積立比率100%が十分維持できるという結果もある中で、必要以上に収益を狙っていく必要があるのかということに疑問を感じる。とにかく安全に最後まで給付ができるように運用してもらえばいい。
 - 流動性やキャッシュアウトを当面の間、心配しなくてもいいということであれば、閉鎖型であっても投資の時間軸は長いのではないか。それであれば、旧3階にも組み入れていってもいいのではないかと思う。どんどん分散をして、収益の機会を狙っていくというのは、よい考えではないか。
 - 1・2階の部分でもオルタナの構成比は上限に達してない段階で、さらに旧3階で組み入れるというのは、時期として早いのではないか。オルタナティブ投資の部分のリスク管理をこれからどういうことで整備していくかということもまだ着地点が見えてない状況でやるよりも、もう少し時間を長目に見て、ゆっくり進めてもいいのではないか。
 - 収益性を目指すべきなのか、それとも安全に運用するべきなのか、議論がなかなか収束しないと思う。
 - オルタナは、長い時間をかけてだんだんと積み上げていくことによって、初めて成果の出る投資。成果を見てから旧3階でやろうと考えると、キャッシュアウトの時期が来て、手遅れというリスクも出てくるのではないか。

以上